

「Radiology in Disorders of the Liver, Biliary Tract and Pancreas」

有 山 襄 順天堂大学講師 著

名古屋大学助教授

中 沢 三 郎

およそ、人が成書を繙く際に、その本の内容が一番重視されることは当然であるが、このほかに著者の人と成りというか、その人の性格やものの考え方などを知ることが本の内容をより深く理解するうえに必要であると同時に、行間から著者の人柄が偲ばれて、読んでいて大変楽しくなるものである。

著者は、端的に言って、常に冷静で探究心が旺盛であり、物事をあいまいなままにしておくことが嫌いのようである。しかし一面、物臭なところもあるように見える。医学に対しては自己を律すること実に厳しく、納得するまで徹底的に研究するといった感じである。これに反して患者に接する態度は優しく、常に患者の身になって診療をされるので患者の信頼も厚く、文字どおり優れた臨床医である。医学的力量は世界的にみても超一流で国際会議の花形であり、まさに現代の寵児である。

著作物というものは一般的には、良いことは一段と強調され弱点はオブラートで包んで婉曲に表現しようとする傾向がある。しかし、これでは見合い写真のようなもので実状に合わないこと夥しく、折角の力作も本来の価値が損われることになる。その点、本書は著者の人柄が如実に現れた作品で、書かれた内容はすべて本音である。肝・胆・膵疾患の診断の要であるX線診断の特徴、所見の読み、長所、短所など著者自身の研究による事実そのものであって、何ら修飾されない生の姿が随所に躍動しており、読んでいてすがすがしい気分になる。それは著者が Angiography, ERCP は申すに及ばず、PTC, US などの技術をすべてマスターしており、しかも、撮影から診断まで一貫して直接、著者がタッチしているので、映像の全体から微細な所見に至るまで熟知しているからであろうと思われる。

おそらく、本書に掲載されている写真はほとんどすべて著者自身の作品であり、彼の秘藏品とも言えるのではなかろうか。そのうえ、副題がついているように、切除臓器に血管造影を行って術前の血管造影および肉眼的所見と対比した点はまことに見事で、世界的にも比類のないものである。X線所見の読みを組織学的なレベルで理解できる点は他書の追随を許さない。また、本書は英語で書かれているが、文章は平易、簡潔で、しかも論旨は明快であるので日本人にも親しみやすく、知らず知らずの間に語学力が身につく一石二鳥である。

筆者は著者が好きである。本書を一読された読者も同じ思いに駆られることであろう。是非お勧めしたい名著である。

B 5 頁 206 図 11 写真 291 1981
¥ 7,000 円 350 <医学書院 刊>